



2023年度 CLA国際委員会  
都市公園制度制定150周年記念事業  
特別セミナー

# グリーンウェッジ アーバニズム

みどりをさしこむまちづくりの  
歴史と理論と現代の実践

## 講師

ファビアーノ・レメス・デ・オリヴェイラ  
ミラノ工科大学  
建築都市研究科教授

Prof. Fabiano Lemes de Oliveira  
Department of Architecture and Urban Studies  
Politecnico di Milano

## プログラム

16:30

趣旨説明：小野 隆  
[CLA国際委員長]

16:35 - 18:15

講演：ファビアーノ L.D. オリヴェイラ  
[ミラノ工科大学教授]

\* 逐次通訳

18:15 - 18:45

質疑応答  
\* 逐次通訳

18:45 - 18:50

まとめ：金清典広  
[CLA会長]

2023  
8 / 29

- 参加費： 無料
- 定員： 先着 200 名
- 申込期限： 8月24日
- 場所： オンライン  
[Zoom 配信]

造園CPD2.3認定プログラム

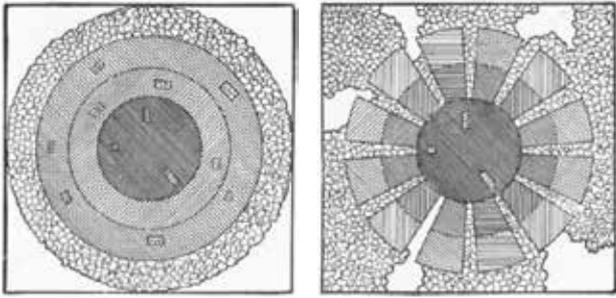
- お申込： Peatix   
<https://greenwedgeurbanism.peatix.com>

- お問い合わせ：  
一般社団法人  
ランドスケープコンサルタンツ協会  
〒103-0004  
東京都中央区東日本橋3-3-7  
近江会館ビル 8階  
TEL 03-3662-8266  
FAX 03-3662-8268  
E-mail: info@cla.or.jp



# グリーンウェッジの計画史

グリーンベルト神話に隠された  
もうひとつの都市緑地モデルの歴史



Eberstadtによるベルトとウェッジのモデル対比 (1911)

19世紀末に提案されたグリーンベルトの理念は、その当初から、都市経済、交通、開発とスプロール、公衆衛生といった複雑な現実を前に揺らいでいた。地図上に重ね合わされた環は、現実の都市に不均等に生じる様々な条件との矛盾のなかで綻びていく。こうして、既存の地勢と都市組織のなかに柔軟に緑地を挿入し、その多面的機能を発揮するための概念モデルが追求された。その多くは中心部に向かう楔状の緑地形状から「グリーンウェッジ」と呼ばれるこ

とになる。大小の楔状緑地を都市組織に柔軟に挿入するこの緑地モデルは今日に至るまで活用されてきたが、歴史的な整理を逃れていた。その隠された歴史を①ベルト対ウェッジ、②ベルト=ウェッジの複合モデル、③複合モデルと衛星都市の連携、④地方規模の交通やインフラを統合した総合系統、⑤水系を含むグリーンインフラ、という五つの段階で19世紀末から現代への流れをまとめた書籍をもとに、本講演ではグリーンウェッジの歴史を概観する。

“グリーンウェッジは多くの人の想像よりも深く20世紀の歴史に関わっている... この緑地構想は、近代の都市拡張や空地確保をめぐる議論を交わした都市計画家たちの思考の中心にあり、今日の都市計画にも継承されているのだ。”

『Green Wedge Urbanism』 Bloomsbury出版 (2017) \*日本語訳進行中



人類活動に起因する気候変動による地球環境や生物多様性の危機と、今後も増加の予測される世界人口の生活環境の開発・維持の必要性という相反する状況は、都市の建設や維持における緑地の確保とその多面的機能のさらなる活用を要請している。こうした課題に応える方策となるグリーンインフラやネイチャーベースド・ソリューション (NbS) や景観生態学をとり入れた都市計画手法として、グリーンウェッジは現代都市でも重要な役割を果たしている。グ

リーンウェッジの10原則として「市街地とグリーンウェッジの調和」「都市と農村の接続」「グリーンウェッジ同士の連続性」「社会に開かれたアクセスと利用」「環境改善をめざす積極的な計画とデザイン」「包括的な都市計画への体系的統合」「生態系サービスとの一体化」「周縁部と連結部の浸透性」「多規模的アプローチ」「かたちの柔軟性」をまとめた書籍をもとに、本講演では現代日本におけるグリーンウェッジの可能性を探る。

## グリーンウェッジの現代性

気候変動や生物多様性などの課題とグリーンインフラやNbSなどの方策



ヘルシンキ都市計画局の多規模型Eco-Viikki計画 (2005)

## ファビアーノ・レメス・デ・オリヴェイラ

ミラノ工科大学 建築都市研究科教授

世界で初めて「グリーンウェッジ」の通史をまとめた歴史書『Green Wedge Urbanism』(2017)の著者。現在はミラノ工科大学で教鞭をとりながら、欧州やグローバル・サウスの都市においてNbS (ネイチャーベースド・ソリューション) やランドスケープ・エコロジーや生物多様性に関する研究・実践を進めている。近年の著書に『Planning Cities with Nature』(2019)、『Nature-based Solutions for Sustainable Urban Planning』(2023)、『Re-Imagining Resilient Productive Landscapes: Perspectives from Planning History』(2023)など。

